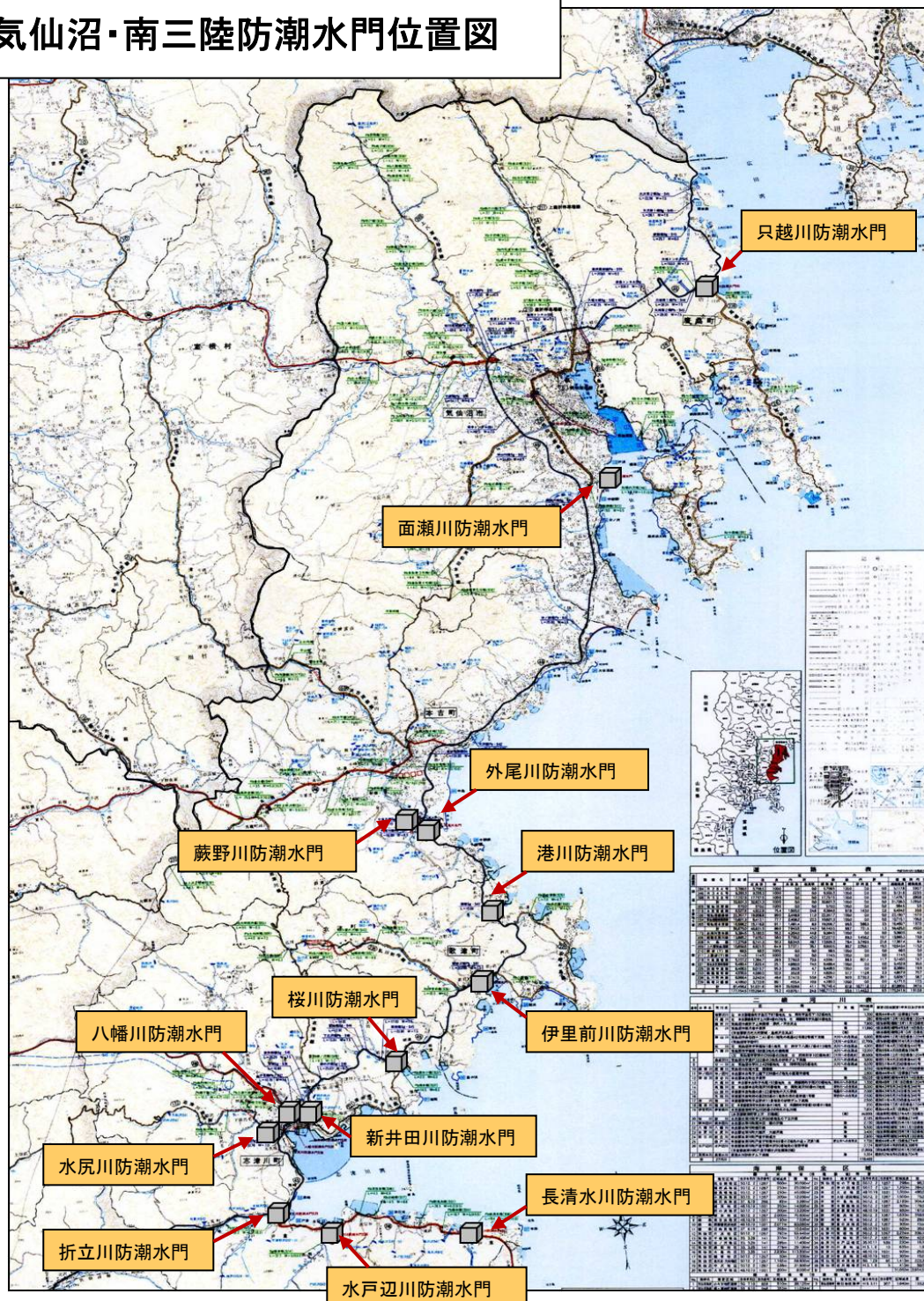


10 防潮水門操作状況

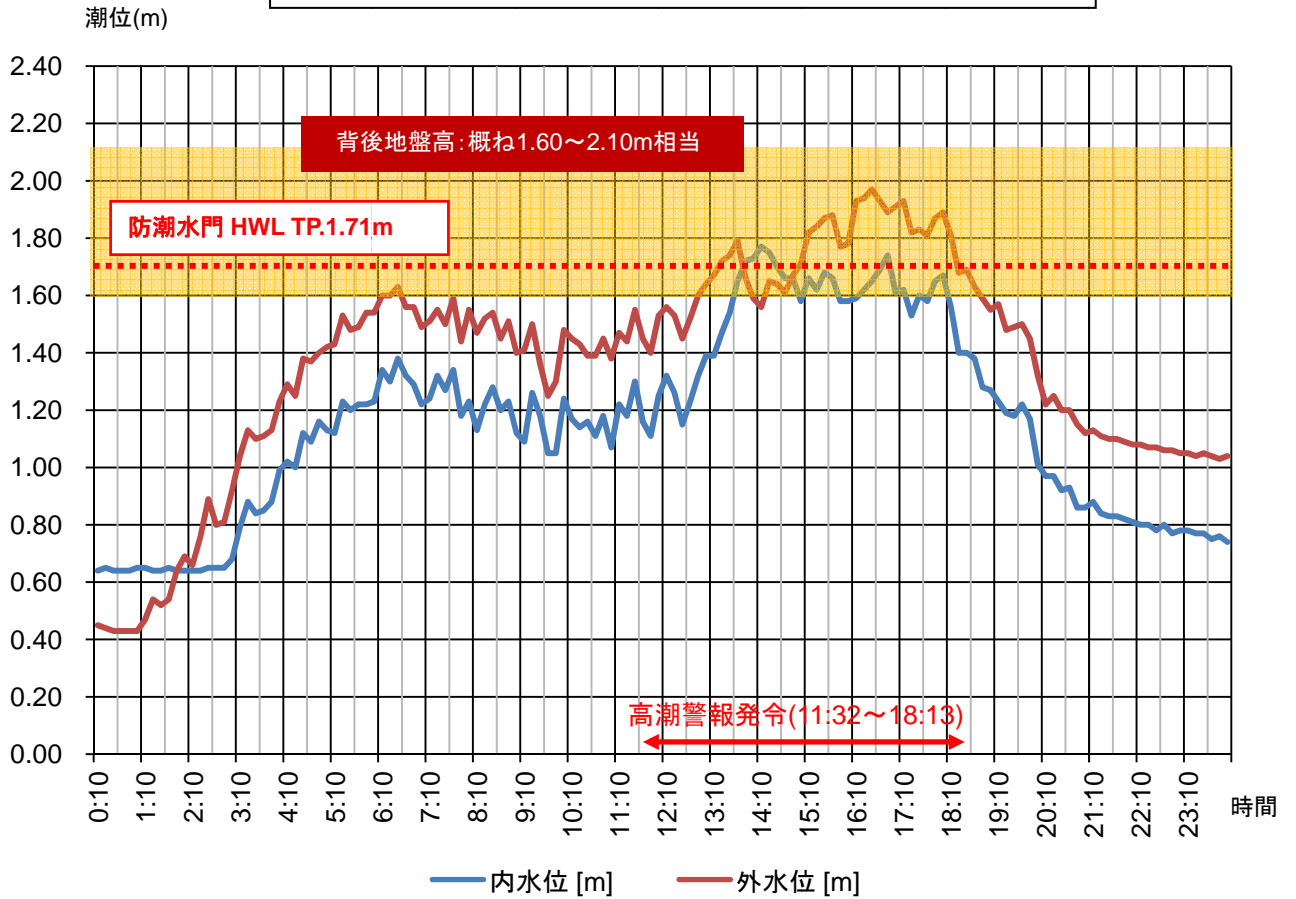
台風の最接近（10月8日午後）と高潮（高潮警報10月8日11:32～18:13）が重複したため、気仙沼地区及び南三陸地区の防潮水門では、高潮影響時の水門閉扉操作を判断するため、土木事務所が水門内外水位の監視を行った。

面瀬川では、潮位上昇と海波の影響が河川に及ぶことが懸念されたため、10月8日午後から夕方にかけて約4時間30分半開状態に操作した。それ以外の河川では、洪水流の勢いが強く、潮位上昇の影響が無かったため水門閉扉操作は行っていない。

気仙沼・南三陸防潮水門位置図

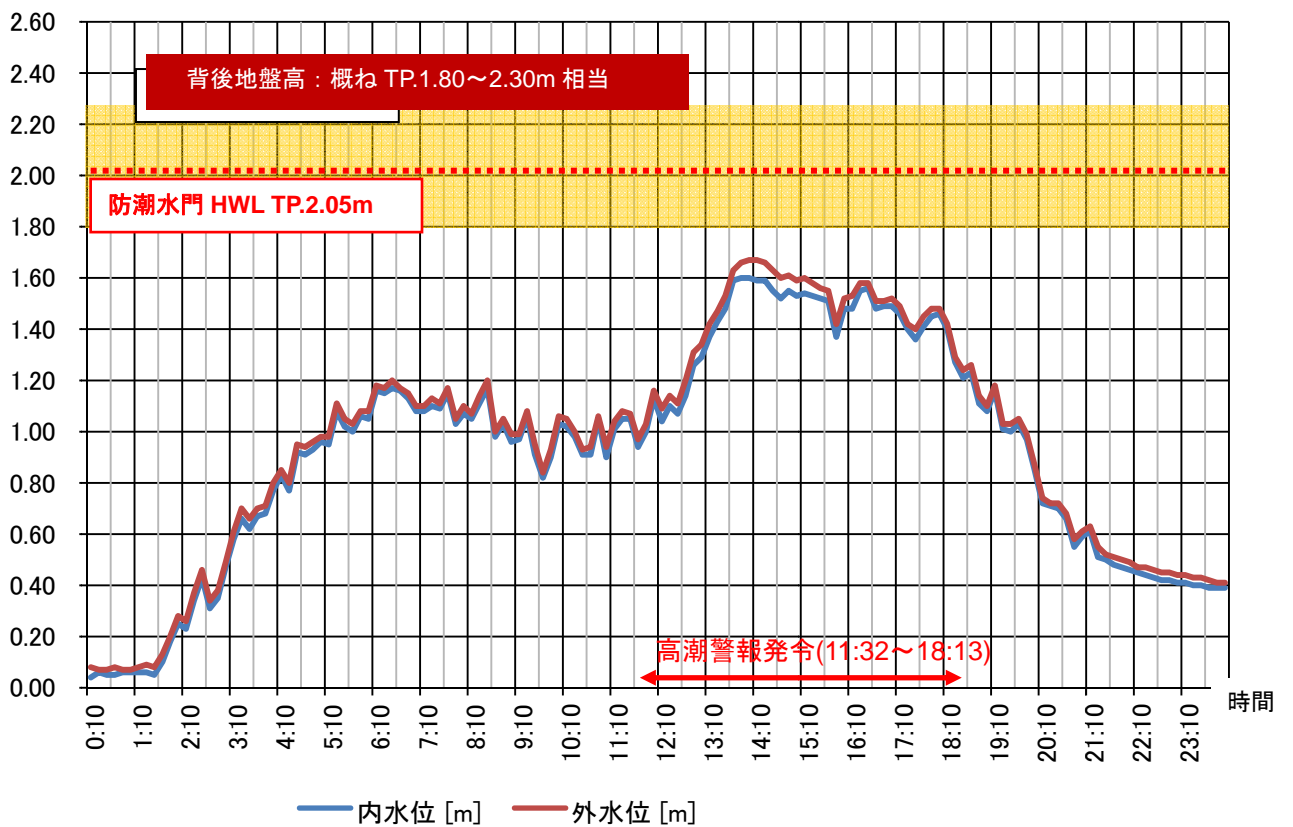


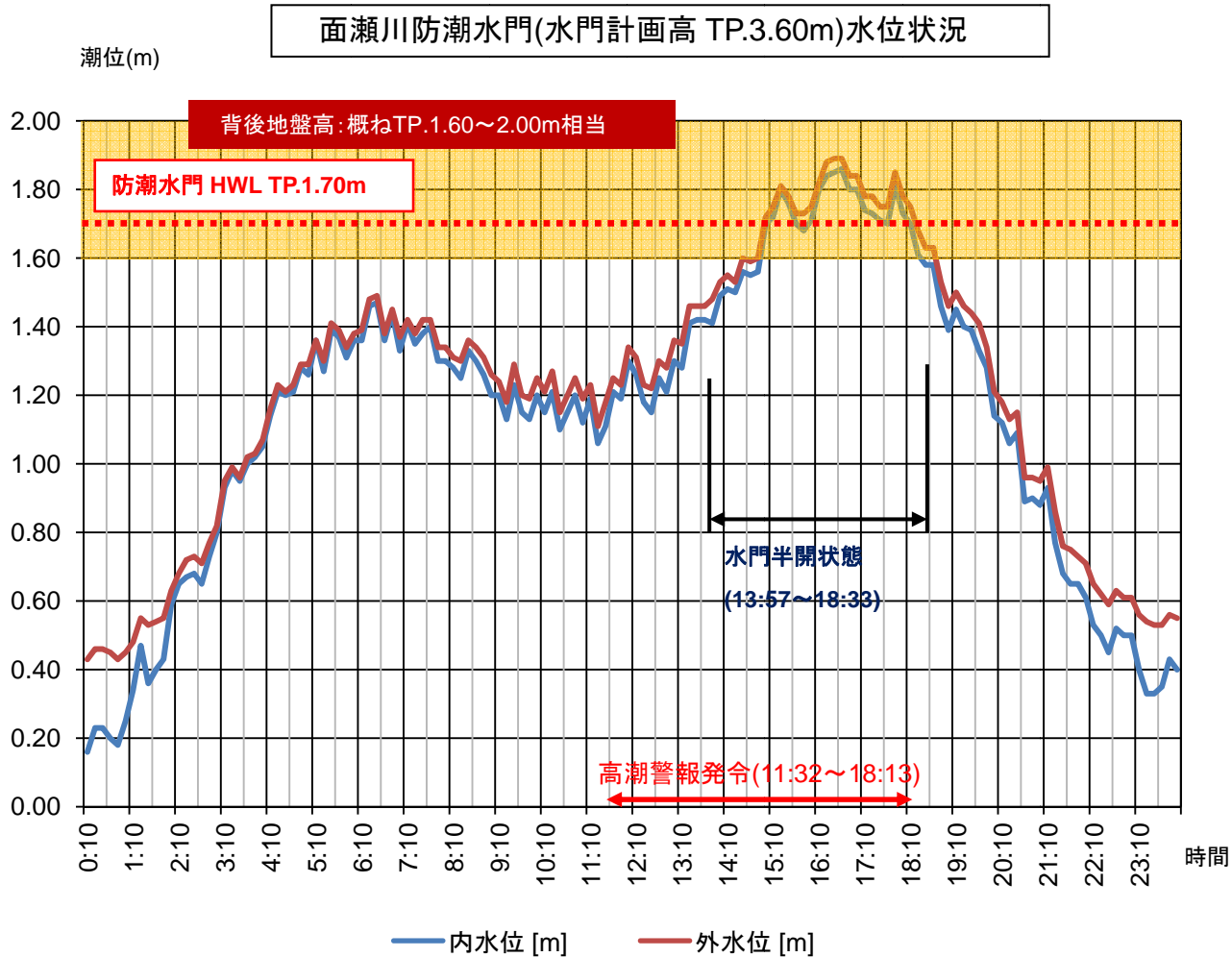
水戸辺川防潮水門(水門計画高 TP.5.00m)水位状況



潮位(m)

折立川防潮水門(水門計画高 TP.5.20m)水位状況





上図には、今回台風と高潮による高潮警報発令状況と、南三陸町の折立川と近隣水戸辺川の防潮水門における内外水位状況、また気仙沼市面瀬川の防潮水門内外水位と水門操作状況を示した。

面瀬川では、警報発令後に潮位上昇や海波が洪水流の流下に影響を及ぼす懸念があったため、10月8日13時57分から18時33分にかけて防潮水門を半開状態にした。その間最も高い潮位を観測した15:00~18:00にかけ、自己流HWLを3時間程度超過した。水戸辺川でも同時間帯に自己流HWLまで水位が上昇した。折立川でも同時間帯に水位上昇はあったが自己流HWLまでには達しなかった。

気仙沼土木では、半開状態に水門を操作した面瀬川をはじめ職員等を配置し、河川水位(内水側)や潮位(外水側)等を監視した。水戸辺川ではピーク時に外水位が内水位より最大約20cm程度高くなったが、沿川に越水被害が発生するまでには至らなかった。その他河川においても内外水位差が生じることなく、また高潮や潮位上昇に伴う海波による河川への逆流や沿川への越水被害などは発生しなかった。